

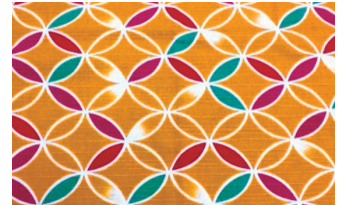
工夫庵の“柄” 其の一

今回は、2015年1月より新しくなりました弊社カタログ「座 Vol. 15」に掲載されております、座布団や暖簾の柄についてご紹介致します。

弊社の柄物商品には、古くからの由来を持つ文様を使用しているものが多くあります。みなさまが、絵柄のもつ意味をとおして、時代を遡り想像力を膨らませ、より楽しんで商品をご使用頂けると幸いです。

七宝(しっぽう)

同じ大きさの円の円周を四分の一ずつ重ねて繋げていく幾何学文様です。円一個分を「七宝^{*1}」と称し、家紋などに使われます。有職文では「輪違い」と呼ばれ、七宝の円形は円満を表し、吉祥文様^{*2}とされます。



七宝

荒磯(あらいそ)

荒磯とは岩の多い荒波の打ち寄せる岸を意味し、波の中に吉祥の魚として古くより親しまれてきた「鯉」の跳ね上がった姿を意匠化した文様のことです。「登竜門^{*3}」のことを鯉の滝登りともいわれることから、鯉は名前が変わる訳ではありませんが出世魚と呼ばれることもあります。このようなことから、「荒磯」も吉祥文様といえます。



荒磯

矢絣(やがすり)

矢絣は矢羽を図案化した文様です。江戸時代に結婚の際に矢絣の着物を持たせると出戻ってこない(射た矢が戻ってこないため)といわれ、縁起柄とされるようになりました。現在では大学の卒業式の際に、袴と合わせる着物の柄として人気があります。



矢絣

鳥獣戯画(ちょうじゅうぎが)

日本初の擬人画といわれ、風刺画の最高峰とも日本最古の漫画とも称される、平安時代に描かれた絵巻です。跳びはね遊ぶ動物達の愉快的な表情は、日本絵画史の一大傑作として高く評価され、京都・高山寺の至宝として国宝に指定されています。

吉祥文様や縁起柄とは異なりますが、いろいろな動物を擬人化して、当時の世相をおもしろおかしく風刺した画は、見るものを楽しい気分にさせてくれます。



鳥獣戯画

ちょっと豆知識

^{*1} 七宝とは元々仏典での用語で、当時大変貴重だった七珍(下記の7つ)のことです。

- 金 随一の貴金属とされ、貨幣、装飾品として用いられます。
- 銀 金に次ぐ貴金属とされ、貨幣、装飾品として用いられます。
- 瑠璃(るり) ガラスの古名で光沢のある宝石「ラピスラズリ-青金石」とも呼ばれ、古代エジプトの時代から珍重されています。
- 瑪瑙(めのう) 縞状に模様がある鉱石で、縞の色は白・赤・緑・紫などがあります。この縞模様で価値が決まり、飾り石として用いられます。
- 玻璃(はり) ガラスを意味する言葉で「頗梨」とも書き、水晶のことを指します。
- 珊瑚(さんご) 南の海で沢山のさんご虫が樹木のような群体をつくり、死ぬとその骨格だけが残り珊瑚となります。
- しゃこ しゃこ貝の略です。最も大きな二枚貝で、その殻は厚く、純白で光沢がありヨーロッパでは教会の聖盤として用いられ、絵画にも見られます。

^{*2} 吉祥文様とは、縁起がいいとされる動植物や物品などを描いた図柄のことです。

^{*3} 登龍門(とうりゅうもん)とは、成功へといたる難しい関門を突破したことをいうことわざで、鯉職(のぼり)の元とされています。

弊社では古来から親しまれてきた伝統的な柄を「宝物」と捉え、これから先の未来へ大切に伝えるべく商品化しております。今回ご紹介した「縁起の良い柄・おめでたい柄」を用いた製品は、お客様の商売繁盛・家内安全等に繋がる事を願い製作しております。まだまだ沢山の魅力的な柄がございますので“其の二”“其の三”とご紹介していきます。ご期待下さい！！